# 県立広島大学　大学院
# 総合学術研究科　学生募集要項
# ◇指導教員及び研究分野◇

保健福祉学専攻（博士課程前期・後期）

令和8（2026）年6月
県立広島大学

# 指　導　教　員　及　び　研　究　分　野
## 【 保健福祉学専攻 博士課程前期・後期 】

出願を希望する者は、指導を受けようとする教員と出願前に入学後の研究等について、必ず相談してください。下記の「指導教員」欄に記載のメールアドレスにメールするか、県立広島大学三原キャンパス事務部教学課を通じて連絡してください。

【県立広島大学 三原キャンパス事務部教学課】
〒723-0053　広島県三原市学園町１番１号
電話（0848）60-1126　　ﾌｧｸｼﾐﾘ（0848）60-1136
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyogaku@pu-hiroshima.ac.jp

### １　地域保健学・実践看護学分野

| 職　名 | 指導教員 | 研究分野の概要 | 主な研究指導テーマ |
|---|---|---|---|
| 教　授<br>※１ | 青井　聡美<br><br>aoi@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 看護技術を科学的に分析し、エビデンスに基づいた援助方法を実証、構築し、新たな看護実践方法を開発する。また、生活習慣病の予防のための健康指標に関する疫学的研究を行う。 | ・看護技術に関連する研究<br>・看護ケアにおける介助者、被介助者の身体的、心理的負担の検証<br>・看護教育における支援システムの開発<br>・生活習慣病と関連指標に関する研究 |
| 教　授<br>※２ | 飯田　忠行<br><br>iida@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 地域協働型保健福祉学の実験的研究を行う。生活習慣やストレスとうつ病、生活習慣と骨関連バイオマーカー・フレイルとの関連について研究する。また、睡眠を客観的な指標（心拍変動や交感神経活性など）を用いて測定し、自覚的ストレス・ストレス関連バイオマーカーと経時的に関連付けて研究する。 | ・骨粗鬆症の発症やフレイルと関連する生活習慣・環境因子を明らかにするための研究<br>・抑うつ早期発見を目指した多角的アプローチによる症例対照研究<br>・ストレスと睡眠の質や量、健康感のメカニズムに関する生理機能からのアプローチ<br>・高齢者のアミューズメント機器の開発および検証研究 |
| 教　授<br>※２ | 岡田　淳子<br><br>ojunko@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 看護師がエビデンスに基づいたケア提供者となるために、看護介入の効果を客観的・論理的に検証する。さらに、看護技術や看護実践の有用性を介入研究によって実証し、患者のQOL向上を目指す看護ケアの開発を行う。 | ・医療関連感染減少のための患者手指衛生推進戦略の構築<br>・感染管理における患者のセルフケア能力向上のための研究<br>・在宅療養患者のQOL向上のための看護ケアの開発<br>・周術期における看護ケア技術の効果の検証<br>・退院支援と退院調整の有効性に関する研究 |
| 教　授<br>※１ | 岡田　ゆみ<br><br>y-okada@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 慢性疾患や障害を持ちながら地域で生活する人びとの回復支援に関する研究を行う。特に地域でのアルコール関連問題に関する研究を扱う。 | ・地域におけるアルコール関連問題(特にビンジ飲酒やアルコール依存症）に関する研究<br>・アルコール依存症者の地域生活支援に関する研究<br>・障害者に対する住民態度や態度変容に関する研究<br>・精神障がい者の地域での回復支援に関する研究 |
| 教　授<br>※１ | 奥田　玲子<br><br>reokd@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 看護職者のキャリア発達に関する研究を行う。看護実践を主体的かつ継続的にリフレクションできる思考の枠組み、リフレクションを促進する支援システムを構築する。また、看護学生の自己調整学習方略の特徴とその効果を探り、主体的な学びを生み出す教育方法を検討する。健康保持・増進の観点から、骨粗鬆症に対する地域住民の健康意識や健康行動に関する疫学的研究、骨折リエゾンサービスの有用性に関する実証的研究を行う。 | ・臨床看護師のリフレクション能力発達に関する研究<br>・臨床看護師のリフレクションを促進する支援システムの構築<br>・看護学生の自己調整学習に関する研究<br>・骨粗鬆症予防行動に関する研究<br>・骨折リエゾンサービスに関する研究 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教　授<br>※２ | 黒田　寿美恵<br><br>kuroda@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 病院・在宅など様々な療養の場におけるがん看護、慢性看護に関して、患者・家族の体験している現象や現象の成り立ちを探究することで、がんや慢性病とうまく折り合いを付けながら生活することを支援する看護実践方法を開発する。<br>また、研究手法として、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）などの質的研究方法を用いている。 | ・治療を受けるがん患者の生活再構築を支援する看護実践モデルの開発<br>・がん患者の在宅療養を支える外来看護モデルの開発<br>・患者・家族の意思決定支援方法の開発<br>・慢性病患者のセルフケアを促進する看護実践モデルの開発<br>・地域包括ケアシステムの実現に向けた外来看護モデルの開発<br>・エンド・オブ・ライフケアに関する研究 |
| 教　授<br>※１ | 菅井　敏行<br><br>sugai@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 地域コミュニティにおける健康増進、疾病予防等につながる専門職の活動について、国・都道府県・市町村の行政が持つ視点および地域生活者の視点を相互に理解し、看護専門職等が行う具体的な実践方法を研究対象とする。量的研究法を主な研究手法として用いるが、時に混合研究法も取り入れる。潜在的・顕在的事象の学術的理解とそれらの根源的な課題の原因解釈に加え、健康増進全般にかかる諸システムの再評価や新規開発から評価まで、一連のプロセスも考究の対象とする。 | ・市町村における予防接種行政に関する研究<br>・地域における感染症発生時におこなう公衆衛生看護学的対応や準備に関する研究<br>・保健師のキャリア形成とスキルアップに関する研究<br>・子宮頸がん予防ワクチン等の理解促進に関する研究<br>・地域包括ケアシステムと地域看護の実践に関する研究<br>・地域コミュニティにおける健康増進、疾病予防施策に関する国際比較 |
| 教　授<br>※１ | 田口　勝敏<br><br>ktaguchi@pu-hiroshima.ac.jp | パーキンソン病脳内では病期の進行に伴って神経変性領域が拡大する。この分子的背景に存在する「病原性シードの細胞間プリオン様伝播」に焦点を当て、神経変性メカニズムの解明と新規神経保護ストラテジーの開発を目指す。 | ・病原性シードの産生メカニズムの解明。特に、ヒト脳における病原性シードの検出。<br>・病原性シードを構成するα シヌクレインの脳内発現解析。げっ歯類のみならず、霊長類脳を用いた組織化学的解析を実施する。 |
| 准教授<br>※１ | 井上　誠<br><br>minoue@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 地域で過ごしている精神疾患を抱えている者や、その家族が抱えている問題解決策について検討する。また、看護師のストレス・メンタルヘルス対策を行うことで看護の質の向上を目指す研究・調査を行う。 | ・精神科における患者から受ける暴言・暴力による心理的な影響についての調査・介入研究<br>・ストレス・メンタルヘルスにおける研究<br>・多職種アウトリーチ（訪問支援）に関する検討<br>・精神科新人教育体制に関する研究<br>・ストレス・疲労による転倒予防 |

## 2　総合リハビリテーション分野（運動行動障害学領域）

| 職　名 | 指導教員 | 研究分野の概要 | 主な研究指導テーマ |
|---|---|---|---|
| 教　授<br>※1 | 梅井　凡子<br><br>umei@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 学生教育、職員教育などに関しての教育方法について研究する。臨床現場へ応用するために技術的な内容の教育に関しては、経験を共有し知識を獲得する方法についての検討を実施する。 | ・学生に対する教育方法<br>・新人教育システム<br>・技術的な内容を伝えるための教育方法<br>・知識共有のための手段 |
| 教　授<br>※1 | 小野　武也<br><br>ono@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 運動障害の発生予防方法や治療方法の発展をめざし、筋電図をはじめ様々な生体工学的手法を用いた定量的評価方法を駆使して探究する。 | ・関節可動域制限<br>・虚血再灌流障害<br>・関節運動の定量的評価<br>・廃用症候群 |
| 教　授<br>※3 | 金井　秀作<br><br>kanai@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 視覚的観察やビデオ等を用いた簡易な動作分析と高額な機器を用いた精密な動作分析による領域にとらわれない“ヒトの動き”に対する効果判定を中心に研究する。 | ・医療（リハビリテーション）系学生を対象とした教材の開発<br>・障害者の日常生活動作分析による理学療法に代表されるリハビリテーションの効果判定<br>・三次元動作解析装置に代表される運動学的分析手法を用いた福祉機器・用具の効果判定及び開発 |
| 教　授<br>※1 | 島谷　康司<br><br>shimatani@<br>pu-hiroshima.ac.jp | ヒトの知覚・認知・運動の発達・学習に関するリハビリテーション研究を行う。その方法として、工学的手法・実験心理学的手法を用いてヒトの発達・学習（再学習）について科学的に検証し、リハビリテーションに応用する。 | ・ヒトの姿勢制御に関連する研究<br>・リハビリテーション評価・支援機器の開発<br>・障がい児・者のニューロリハビリテーション研究<br>・子どもの発達支援と教育支援に関する研究<br>・産業リハビリテーション領域の研究 |
| 教　授<br>※1 | 田中　聡<br><br>s-tanaka@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 理学療法学的観点から、種々の機能・形態障害に対する評価・治療法の検証を行う。また、健康増進や介護予防の取組みについて身体機能評価や健康科学、健康心理学的手法を用いた効果の検証に関する研究を行う。 | ・運動障害の予防や健康増進、介護予防のための身体機能的及び健康科学的評価法の確立と効果的な運動方法・健康教育方法に関する研究<br>・臨床理学療法の評価法ならびに治療効果に関する調査・研究 |
| 教　授<br>※2 | 西上　智彦<br><br>tomon@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 疼痛を随伴する症状ではなく、疾患として捉え、疼痛に関連した様々な基礎・臨床研究を行う。 | ・旧姓・慢性疼痛（運動器疼痛、がん性疼痛、幻肢痛、CRPS など）の評価及び介入研究<br>・中枢性感作、身体知覚異常、運動恐怖に関する研究<br>・Pain Neuroscience Education の研究<br>・疼痛関連質問票の開発及び妥当性の研究<br>・地域在住者・勤労者における疼痛の調査及び介入研究 |
| 教　授<br>※1 | 長谷川　正哉<br><br>m-hasegawa@<br>pu-hiroshima.ac.jp | ・義肢、装具、医療福祉機器、運動療法機器、物理療法機器、日用品、生活空間などの外的環境がヒトに与える影響について検討する。<br>・理学療法士の働き方やキャリアマネジメントに関する研究を行う。<br>・新規事業創出や起業に関する研究を行う。 | ・靴およびインソールに関する開発と研究<br>・感覚を用いた運動指導に関する研究<br>・運動指導や運動学習を効率化する手法の検討<br>・日用品の開発や改良<br>・心理的安全性に関する調査・研究<br>・理学療法士の起業に関する調査・研究 |
| 教　授<br>※2 | 森　大志<br><br>mori@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 脳による運動機能発現メカニズムまた脳傷害後の機能回復メカニズムの解明を目的とした基礎・臨床リハビリテーション医学研究をヒトを対象として行う。さらに企業健康経営や作業遂行コーチングに関する研究を開始した。 | ・運動機能と脳活動に関する研究<br>・姿勢・歩行運動制御に関する研究<br>・ニューロリハビリテーションに関する研究<br>・企業健康経営への療法士参画に関する研究<br>・作業遂行コーチングに関する研究 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 准教授<br>※1 | 積山　和加子<br><br>tsumiyama@pu-hiroshima.ac.jp | 内部障害者の運動機能低下を予防する運動療法の検討や地域包括ケアシステムの構築に向けた介護予防事業の効果検証、ウィメンズヘルスに関する基礎研究など、予防領域における理学療法に関する研究を行う。 | ・内部障害者の評価方法に関する研究<br>・心臓リハビリテーションに関する研究<br>・腎臓リハビリテーションに関する研究<br>・介護予防・健康増進に関する調査・研究<br>・ウィメンズヘルス理学療法に関する基礎研究 |
| 講　師<br>※1 | 岡村　和典<br><br>k-okamura@pu-hiroshima.ac.jp | 日常生活やスポーツ活動中に発生する運動器の外傷・障害に対し、有効な治療・予防方法を確立することを目的に研究を行う。<br>三次元動作解析や筋電図、超音波画像などを用いて、外傷・障害の発生に関係する身体の構造や機能、動きを明らかにする。また、これらを改善するための方法を検討する。 | ・運動器の外傷・障害を対象としたバイオメカニクス研究（発生メカニズムの解明、治療・予防方法の効果検証）<br>・スポーツ現場での外傷・障害に関する疫学調査<br>・スポーツ選手のコンディショニングに関する研究 |
| 講　師<br>※1 | 金指　美帆<br><br>m-kanazashi@pu-hiroshima.ac.jp | 疾患や加齢に伴うサルコペニアの予防・改善を目的に、基礎研究（細胞・遺伝子レベル）からヒトを対象とした臨床研究を行う。また、栄養、運動、物理療法を用いた治療効果とその作用メカニズムの解明にも取り組む。 | ・加齢や慢性疾患に伴う筋萎縮および微小血管障害に関する基礎研究<br>・サルコペニア予測バイオマーカーの開発<br>・超音波、CT、血液、遺伝子などを用いた筋質評価に関する研究<br>・栄養、運動、物理療法による介入の基礎および臨床研究 |

### ３　総合リハビリテーション分野（作業遂行障害学領域）

| 職　名 | 指導教員 | 研究分野の概要 | 主な研究指導テーマ |
|---|---|---|---|
| 教　授<br>※１ | 古山　千佳子<br><br>ckoyama@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 地域で暮らす障害児（者）を対象とした作業中心の作業療法の方法論と成果を実証的に明らかにすること、または、幼児児童生徒の地域生活および学校生活を支援するための方法論や有用性を実証的に明らかにすることを目的とした研究を行う。 | ・作業中心の作業療法の方法論と成果に関する研究<br>・作業遂行分析を用いた作業療法に関する研究<br>・特別支援教育における作業療法の有用性と可能性に関する研究<br>・教員と作業療法士の連携・協働に関する研究 |
| 教　授<br>※２ | 西田　征治<br><br>s-nisida@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 身体障害および老年障害に伴う生活機能の課題や問題を予防・改善するための評価法や治療法の開発研究を行う。また、若年性を含む認知症の人やその家族の地域生活の質の向上を目指した調査・介入研究を行う。 | ・上肢骨折後の認知戦略を活用した治療法開発<br>・高齢者の術後せん妄予防プログラムの開発<br>・脳卒中者に対する介護技能評価尺度の開発<br>・認知症者の行動心理症状を軽減する介入研究<br>・認知症者の活動の質を評価するツールの開発<br>・認知症者の家族教育訓練プログラムの開発 |
| 教　授<br>※２ | 久野　真矢<br><br>hisano@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 人-作業-環境の適合を図るために必要な相互関連に関する基礎的な研究および臨床的有用性に関する研究を行う。また、作業療法教育に関する研究を行う。 | ・作業の習慣化に関する研究<br>・認知と行動変容に関する研究<br>・作業療法介入効果に関する調査研究、介入研究<br>・リハビリテーションおよび作業療法教育に関する調査研究、尺度開発 |
| 教　授<br>※２ | 藤巻　康一郎<br><br>fujimaki@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 入院患者早期退院・早期社会復帰に向けたリハビリテーションの個別適正化プログラムに関する研究を行う。また、精神疾患の早期発見や予防に関する研究を行う | ・早期退院・早期社会復帰に向けたリハビリテーションの個別適正化プログラムの新規作成に関する研究<br>・うつ病患者の早期発見や「うつ病予備群」への早期対応に関する研究。<br>・ストレスへの主観的認知に関する研究<br>・抑うつ・意欲低下の背景にある脳メカニズムに関する研究 |
| 教　授<br>※１ | 山下　美保<br><br>yamashita@pu-hiroshima.ac.jp | 小児を対象として、肥満や痩せといった体格にともなう健康障害や、その背景についての調査を行っている。特に神経発達症児における肥満や痩せの割合を把握して、その背景要因について明らかにすることで、健康障害の予防や対策につなげることを検討している。また摂食障害や起立性調節障害などの心身症、骨代謝や糖尿病といった小児内分泌疾患も研究対象である。 | ・小児期の自閉スペクトラム症における肥満リスクと食嗜好の特徴<br>・幼児期の健やかな成長を応援する食事アドバイスブック<br>・生後早期の受動喫煙による小児肥満への影響<br>・若年成人女性の骨密度と運動ならびに栄養摂取量との関係<br>・起立性調節障害患者の下肢血行動態についての検討<br>・回避制限性食物摂取症を契機に神経発達症が明らかになった例 |
| 准教授<br>※１ | 織田　靖史<br><br>yasushiorita@pu-hiroshima.ac.jp | メンタルヘルスの問題やそれに伴う生きづらさなどによる課題や問題を予防・改善するための介入方法およびそれに必要なスキルの教育方法についての開発研究を行う。また、精神領域での介入の実施状況や環境的条件などの調査研究、介入効果の検証研究も行う。 | ・マインドフルネス作業療法（MBOT）の開発と効果検証および教育方法に関する研究<br>・感情調節困難者の介入プログラムの開発、検証<br>・産業精神保健に関する疾患予防的介入の研究<br>・気分障害、ストレス疾患への介入法の検討<br>・アスリートのメンタルヘルス介入<br>・精神に障害のある方へのスポーツ支援<br>・作業療法士の教育に関する研究 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 准教授<br>※1 | 助川　文子<br><br>a-sukegawa@pu-hiroshima.ac.jp | 子どもと家族の活動・参加を支援し、作業を介してセルフアドボカシー・スキルを育成する、作業療法プログラムの開発とその効果検討を行う。そのため当事者参加型研究、学校教育と協働する作業療法、作業環境の調整やハンドスキルの育成に必要な作業の研究を行う。 | ・神経発達症のある児と家族の就学移行支援の研究<br>・学校教育と協働する作業療法の研究<br>・学齢期の学校参加支援の研究<br>・書字障害などハンドスキルの育成の研究<br>・こどものライフステージにおける「重要な作業」の研究<br>・神経発達症のある児の社会移行支援の研究 |
| 准教授<br>※1 | 高木　雅之<br><br>takagi@pu-hiroshima.ac.jp | 作業参加を促進する環境や個人の能力を開発する方法とその効果を検証する研究を行う。また、個人の作業経験を探索し、意味のある作業への参加や作業的によい状態を促進する研究を行う。 | ・作業参加を促進するプログラム開発<br>・作業参加と健康増進に関する研究<br>・作業参加と生きがいに関する研究<br>・作業のマネジメントに関する研究<br>・作業の場作り・まちづくりに関する研究<br>・作業経験や作業の意味を探索する研究 |

## 4　総合リハビリテーション分野（コミュニケーション障害・脳科学領域）

| 職　名 | 指導教員 | 研究分野の概要 | 主な研究指導テーマ |
|---|---|---|---|
| 教　授<br>※２ | 小澤　由嗣<br><br>ozawa@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 通常の発話運動および発話運動症について基礎的･臨床的研究を行ってきた(発話動態、発話明瞭度評価法、運動学習等)。現在は特に、神経･筋原性発声発語障害(dysarthria)のある人のコミュニケーションの実行状況の把握および支援方法について検討している。 | ・コミュニケーション障害のある人の日常コミュニケーション（活動・参加）の評価法の開発<br>・comprehensibility：コミュニケーション文脈における会話相手による理解度を主軸とした評価・支援方法の研究<br>・会話相手理解度向上因子とその特徴の研究<br>・患者報告アウトカム（PRO）に関する研究 |
| 教　授<br>※２ | 佐藤　紀代子<br><br>kiyoko-y@<br>pu-hiroshima.ac.jp | 人のライフステージにおいて聴覚障害が生じた場合、聴覚障害の病態に即して必要とされる支援と介入方法に関する研究を行っている。<br>特に、超早期診断および補聴が可能となった軽中等度難聴児の言語発達やコミュニケーション行動、障害認識などについて検討し、支援方法の確立・普及について検討している。 | ・聴覚障害児者のライスステージにおける支援ニーズと支援スキルに関する研究<br>・聴覚障害児者における会話方略の評価に関する研究<br>・聴覚障害児者に関わる側に必要とされるコミュニケーション技術に関する研究<br>・聴覚障害児者のコミュニケーションスキルと障害認識に与える影響に関する研究<br>・人工内耳装用者および中等度難聴者の障害認識に関する研究<br>・超早期補聴が可能となった軽中等度難聴児の言語発達と日本語構文発達 |
| 教　授<br>※２ | 田口　亜紀<br><br>akiaki@<br>pu-hiroshima.ac.jp | コミュニケーション障害、特に音声・嚥下に関する基礎研究や、音声障害・嚥下障害の病態や治療に関する研究を行う。 | ・音声障害の自覚的評価法について<br>・音声障害に対する音声治療のエビデンスについての研究<br>・発声のメカニズムに関する研究<br>・嚥下障害の客観的評価方法の開発とそれによる嚥下障害の分析、評価<br>・嚥下障害の自覚的評価方法の検討<br>・加齢と嚥下障害に関する研究 |

**5　ヒューマンサービス分野**

| 職　名 | 指導教員 | 研究分野の概要 | 主な研究指導テーマ |
|---|---|---|---|
| 教　授<br>※1 | 越智　あゆみ<br><br>ochi@pu-hiroshima.ac.jp | 支援を必要とする状況に直面した人が相談しやすい、利用しやすい相談支援の仕組みを地域の中に作っていくソーシャルワーク実践などを取り上げ、研究する。社会福祉に限らず、医療、看護、保健、リハビリテーションなど、様々な立場から研究及び実践する精神保健福祉学に関わる研究にも取り組む。 | ・幼少期から高齢期まで全てのライフステージで生じるメンタルヘルス課題に関わる研究<br>・保健福祉専門職が関わっている利用者の背景にあるメンタルヘルス課題と、その課題への対応に関する研究<br>・様々な課題を抱えても安心して生活できる地域づくりに関する研究<br>・メンタルヘルスをはじめ、様々な課題に関わる専門職や関係機関の連携に関する研究<br>・社会調査を活用した根拠に基づく実践（個別支援、組織化、地域づくりなど）に関わる研究 |
| 教　授<br>※2 | 細羽　竜也<br><br>hosoba@pu-hiroshima.ac.jp | 様々な社会場面がそこで生活し得ている人の主観的・行動的反応に与える影響を、(1) ストレスなど否定的な側面と、(2) やりがいや意欲といった肯定的側面の両面から研究する。加えて、生活課題に直面した人の環境要因を分析し、心理社会的援助につなげる方法についても研究する。 | ・福祉専門職が生き生きと働ける職場環境づくりに影響を与える要因とその影響過程に関する研究<br>・ライフサイクルに渡り、生活課題に影響を与える要因の探索と課題解決に資するプログラムの開発・検証に関する研究<br>・障害（児）者の社会適応支援に関する研究<br>・ストレスに対する心理社会的ケアに関する研究<br>・ソーシャルワークに対する心理学的アプローチに関する研究 |
| 教　授<br>※1 | 松宮　透高<br><br>yukitaka@pu-hiroshima.ac.jp | 精神障害者の保健医療福祉問題をはじめ、メンタルヘルス関連問題へのソーシャルワーク支援について、当事者、家族、支援者へのエンパワメントや主体性尊重、支援システム構築などのアプローチに主眼を置いて研究する。 | ・メンタルヘルス問題のある親による子ども養育世帯へのソーシャルワーク支援<br>・精神保健福祉士養成教育における指導者の「モデル性」に関する研究<br>・ACT プログラムにみる精神保健医療福祉専門職の子ども虐待対応機能 |
| 准教授<br>※2 | 大下　由美<br><br>ohshita@pu-hiroshima.ac.jp | 社会構成主義的システムズ理論を土台とした、包括的家族支援の実践モデルの研究をする。<br>特に家族を支援の基本単位として、家族とその背景システム（コミュニティ）への支援を可能にする、基礎理論、評定論、介入技法論、そして効果測定論の体系化および、それらを基本とした臨床実践での実証研究を行う。 | ・様々な人の生活場面の適応の問題をシステム論に基づき解決する包括的支援の理論と技術の研究を指導する<br>・身体、心理、社会の諸レベルでの問題を抱える多問題の家族に対する、問題解決のための評定法、介入法、そして効果測定法についての実践研究を指導する<br>・コミュニティの構成員の問題解決を促す包括的な支援の理論、技法及び効果測定法について教授し、その研究法の指導を行う。<br>・手話言語を含む、異文化ソーシャルワークの実践研究を指導する。<br>・これらの研究の水準を高めるため、海外の大学の研究者たちとの国際的な共同研究を通して、国際レベルで最前線のソーシャルワークの理論と実践法を指導する。 |

※1　保健福祉学専攻博士課程前期　担当
※2　保健福祉学専攻博士課程前期・後期　担当
※3　保健福祉学専攻博士課程前期・生命システム科学専攻博士課程後期　担当

## 入学試験に関する問合せ

◇保健福祉学専攻
県立広島大学　三原キャンパス　事務部教学課
〒723-0053　広島県三原市学園町１番１号
電話 0848-60-1126　　fax0848-60-1136
メールアドレス　kyogaku@pu-hiroshima.ac.jp